外国史概論 I
Introduction to Foreign History I

ARAI Masako 荒井 雅子　KANDA Motoshige 神田 基成

科目ナンバリング：DEC-2-360-03/DIB-2-441-03/DIS-1-351-03/DLP-2-365-03
商学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「幅広い教養」を身につける為の科目

■授業の目的及び到達目標
本授業の目的は、中学校社会科あるいは高等学校の世界史に係る科目を指導することを前提に、歴史的な見方・考え方を働かせて具体的な歴史事象を通して理解することである。世界史に関わる事象を教える際の歴史的な見方・考え方を理解し、世界史学習の意義を自分なりに表現できることを到達目標とする。

■授業計画
1 世界史教育の現在
学習指導要領における世界史の位置づけ、世界史教育の変遷、実践上の課題について理解する。
2 世界史における時間と空間
暦の紀元や時代区分、歴史地図などを例に、世界史における時間認識と空間認識について理解する。
3 日本と世界の諸地域の交流
日本と世界の諸地域の接触・交流を身近な事例を通して理解する。
4 古代文明の成立
古代文明が限られた地域から起こった背景やその歴史的特質を理解し、古代文明の現代への影響について考察する。
5 地中海文明の成立
ギリシア・ローマを舞台に展開した地中海文明の特色を理解し、それをヨーロッパ文明の源流と考える歴史観について考察する。
6 インド文明の成立と展開
インド文明の特色を理解し、その特色を歴史的盛衰や他文明との比較のなかで考察する。
7 東アジア世界の展開
東アジア世界の展開について中国の諸王朝の興亡と隣接世界との関係の推移のなかで理解する。
8 イスラーム文明の成立
イスラーム文明の成立過程とその文明の特色について理解する。
9 イスラーム世界の展開
イスラーム世界の展開を理解し、イスラームが果たした歴史的役割について多面的に考察する。
10 中世の欧州
中世のヨーロッパの複層性について理解し、国民国家の在り方と対比する。
11 モンゴル帝国の時代
モンゴル帝国が果たした世界史上の役割について理解する。
12 13 世紀の世界
諸地域の交流に注目して 13 世紀の世界を横断的にとらえる見方・考え方を理解する。
13 前期の学修の総括
学期試験と試験後のフィードバックとしての解説を通して、前期の学修を振り返り、その到達度を評価する。

■授業の方法
講義だけでなく、ワークや発表などの演習を取り入れて授業を進める。世界史学習の基本的事項の理解にとどまらず、世界史を教える立場から歴史的な見方・考え方を働かせて考える場面を多く設定する。

■予習・復習
予習：授業で扱う単元内容について、教科書を事前に読んで確認・整理する。(5 時間程度)
復習：毎回の授業内容を整理し、授業で取り上げる場合のポイントをまとめるとともに、追究課題を記入する。(5 時間程度)

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）
学期試験６０％、予習・復習を含む課題や演習などの授業中の取組状況を４０％として、それらを総合的に評価する。演習では毎回事後に解説を行うとともに、試験後もフィードバックとして解説を行う。

■教科書・参考書
教科書：高等学校教科書「世界史探究」、中学校教科書「新しい歴史」(東京書籍)
参考書：『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説』、『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説』、その他は授業時に紹介する。

■関連する科目
「社会科・地理歴史科教育法」「社会科・公民科科教育法」「国際政治史」「国際関係論」「日本外交史」

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）
講義を担当する神田基成と荒井雅子は私立高校で地理歴史科の教員として世界史を指導した実績を持っている。また世界史の教科書や学習教材、さらに教員向けの指導資料などを執筆・作成した実績も持っており、こうした実績を当該科目での指導に活かしていく。